

報道関係 各位

2018年8月6日
株式会社日本レースプロモーション

8月18日(土)～19日(日)
2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 ツインリンクもてぎ
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、8月18日(土)～19日(日)の2日間、栃木県茂木町 ツインリンクもてぎ(1周:4.801km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第5戦を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース52周(249.672 km)にて争われます。

第5戦 が行われるツインリンクもてぎは、ストップ&ゴーを繰り返すレイアウトのため、ブレーキに大きく負荷がかかるコースとなっています。また今大会は、猛暑の中でのレースが予想されるため、ドライバーはもちろん、タイヤやマシンにも非常に厳しい条件を強いられるレースとなります。

今大会は、小林 可夢偉(カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)と中嶋 一貴(バンテリン チーム トムス)が、WEC 世界耐久選手権に出場するため欠場します。そのため小林、中嶋に代わり、中山 雄一(カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ(バンテリン チーム トムス)の2人が、2016年の参戦以来2シーズンぶりに参戦します。また、今シーズン注目の福住 仁嶺(チーム・ムゲン)も、開幕戦から4戦ぶりに戻ってきます。この中山、J.P.デ・オリベイラ、福住らの復帰組が、後半戦のチャンピオン争いに、どのような変化をもたらすのか注目が集まります。また、第2戦のオートポリス大会より参戦している、トム・ディルマン(ウオモ スノコ チーム ルマン)は、引き続き今大会も出場します。

シリーズ後半戦を迎える現在のドライバーランキングは、今季2勝をあげている山本 尚貴(チーム・ムゲン)が22ポイントで、依然ランキングトップを守っているものの、2位のニック・キャンディ(コンドー レーシング)が前大会、ポール トゥ ウインで初優勝を飾り21ポイントと僅か1ポイント差にまで詰め寄っています。続く3位に石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)、4位に関口 雄飛(イトチュウエネクス チーム インパル)となっています。今大会で山本、キャンディが、さらにポイントを重ねるのか、それとも猛者たちが行く手を阻むのか。ランキングに大きく影響する重要な1戦となります。

※前大会に続き今大会会期中も、新型車両『SF19』をグランドスタンドプラザ内およびパドックエリアで一般公開いたします。19日(日)には、山本のドライブによる『SF19』デモ走行を行います。



前戦、富士スピードウェイ大会で初優勝をポール トゥ ウインで飾り、トップと1点差でランキング2位につけているニック・キャンディ(コンドー レーシング)

公式予選

Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選で好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能

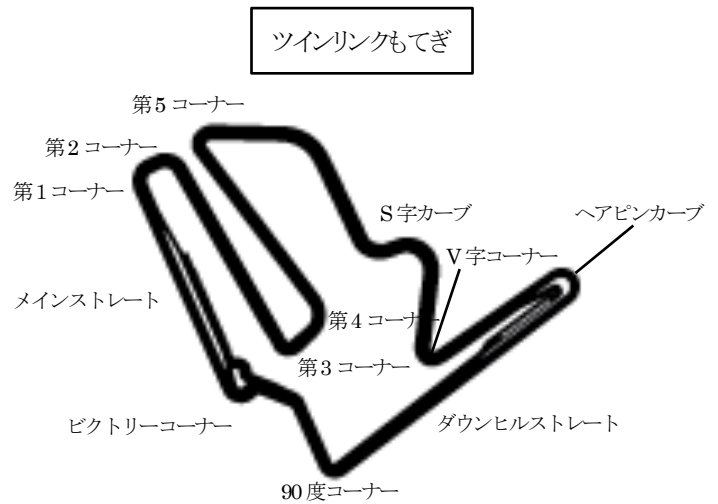
※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能

決勝レース

52周 (1周:4.801km×52周=249.672km)

ツインリンクもてぎについて

全長距離、フルコース4.8kmを誇るヨーロッパスタイルのロードコースです。コーナー数14(右8、左6ヶ所)、最大直線長762m、最大高低差30.4mのこの国際規格サーキットでは、多彩でエキサイティングなレースが楽しめます。また、典型的なストップアンドゴーのコースレイアウトから、非常にブレーキに厳しいコースとなっています。オーバーテイクポイントは非常に限られており、ダウンヒルストレートからの90度コーナー侵入でのブレーキング勝負が最大の見どころとなります。



2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 エントリーリスト

2018年8月6日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	1993/10/13	日本/埼玉県			
7	トム・ディルマン Tom Dillmann	1989/ 4/ 6	フランス	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
18	中山 雄一 Yuichi Nakayama	1991/ 7/25	日本/東京都	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ Joao Paulo de Oliveira	1981/ 7/13	ブラジル	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテルイン チームトムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	ジェームス・ロシター James Rossiter	1983/ 8/25	イギリス			
50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	1986/ 12/ 9	日本/東京都	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	本山 哲	HONDA HR-417E
64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	22	11	0	10	1	0	0	0
2	3	Nick Cassidy	21	2	0	8	11	0	0	0
3	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	13	5	0	0	8	0	0	0
4	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	11	8	0	0	3	0	0	0
5	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	11	1	0	6	4	0	0	0
6	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	9	6	0	<u>3</u>	0	0	0	0
7	2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	6	0	0	0	6	0	0	0
8	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	6	0	<u>1</u>	0	5	0	0	0
9	7	トム・デイルマン Tom Dillmann	5	0	0	5	0	0	0	0
10	64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	4	0	0	4	0	0	0	0
11	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	4	0	0	0	0	0	0
12	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	3	0	0	3	0	0	0	0
13	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	0	0	0	0	0	0
14	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	2	0	0	0	2	0	0	0
15	4	山下 健太 Kenta Yamashita	1	0	0	1	0	0	0	0
	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	0	0	0	0	0	0	0	0
	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	0	0	0	0	0	0	0	0
	37	J・ロシター James Rossiter	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	ピエトロ・フィッティパルディ Pietro Fittipaldi	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	阪口 晴南 Sena Sakaguchi	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選1位

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	21	10	0	10	1	0	0	0
2	3 4	KONDO RACING (コンドーレーシング)	21	2	0	9	10	0	0	0
3	1 2	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ビーエムユーセルモインギング)	19	5	0	0	14	0	0	0
4	19 20	ITOCHEU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	16	8	0	0	8	0	0	0
5	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	11	1	0	6	4	0	0	0
6	5 6	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	8	6	0	2	0	0	0	0
7	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	8	4	0	4	0	0	0	0
8	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	7	0	0	5	2	0	0	0
9	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	3	0	0	3	0	0	0	0
10	17	REAL RACING (リアルレーシング)	3	3	0	0	0	0	0	0
	50	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝

*チームポイント：各チーム（エントラント）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エントラント）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、予選1位のポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : ツインリンクもてぎ 2&4 レース
2018 年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 ツインリンクもてぎ
- 開催日程 : 2018年8月18日(土) 公式予選
2018年8月19日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : ツインリンクもてぎ(1周:4.801km)
- 主催 : (4輪) エムオースポーツクラブ(M.O.S.C.)
株式会社モビリティランド
(2輪) 一般財団法人日本モーターサイクリススポーツ協会(MFJ)
株式会社モビリティランド
- 公認 : (4輪) 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
(2輪) 国際モーターサイクリズム連盟(FIM)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)
Honda ワンメイクレース事務局(HORS)
- 同日開催 : 2018年 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦(JSB1000)
2018年 全日本フォーミュラ3選手権 第10戦/第11戦/第12戦
N-ONE OWNER'S CUP Rd.11

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2018スーパーフォーミュラ第5戦 ツインリンクもてぎ』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。ピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をモータースポーツジャーナリストの高橋二郎と東(ひがし)美樹がレポートします。今大会は、解説者に鈴木亜久里を迎え、鋭くまたわかりやすく解説します。

○実況：ピエール北川

○解説：鈴木亜久里

○ピットリポーター：高橋二郎、東(ひがし)美樹

○放送時間：2018年8月19日(日) 14:00～15:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズンのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉とゲスト解説の松田次生がレースを分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りします。

番組に華を添えるのは、進行を担当する本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

《放送予定時間》

第6話： 2018年 8月 25日(土) 23:00～23:55

2018年 9月 2日(土) 26:00～26:55(再放送)

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

詳しくは jsports.co.jp をご参照ください。

第5戦 ツインリンクもてぎ

予選 2018年 8月18日(土) 14:20～(予定) J SPORTS 1 <生中継>

決勝 2018年 8月19日(日) 13:45～(予定) J SPORTS 1 <生中継>

【映像の配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

[superformulavideo-YouTube](https://www.youtube.com/user/superformulavideo)

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

- motorsport.com (配信)
- motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

- オフィシャルWEBサイト
<http://superformula.net>
- 公式LiveTimingアプリ
iOS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter #sformula
https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)
高校生以上:5,000円パスポート1日分付
学割(高校生以上の学生):2,500円パスポート1日分付
中学生以下: 無料
※お子さまのレース観戦は、観戦券をお持ちの高校生以上のご同伴が必要です。
- 前売駐車券(2日通し券)
4輪:1,500円
2輪:無料 スーパースピードウェイ3~4ターン駐車券:3,100円(限定50台)
- キャンプステイ駐車券(2日通し券)
スーパースピードウェイコースサイド(限定110台)
ロードコースコースサイド(限定110台)
V字オートキャンプサイト(限定30区画)
各6,200円

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル
e-mail:media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外19名(19台)のドライバーが転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 21 ~ 22	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km
5 / 12 ~ 13	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
5 / 26 ~ 27	第3戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
7 / 7 ~ 8	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 18 ~ 19	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 8 ~ 9	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 27 ~ 28	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km ※

※：レース距離は暫定。

2018年シリーズ 選手権ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー: 当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント: 各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からも注目を集めるようになりました。
来シーズンは、新車両の「SF19」の導入が予定されておりますので、現行車両「SF14」のラストランの年であります。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。
このエンジンの特徴としては、「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。
厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。
このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。
SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。
またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

2018シーズンは全7戦において、「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」を使用する2スペックタイヤ制が導入されます。チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開が期待されます。